



第37回日本臨床整形外科学会学術集会 火の国学会・熊本 ランチオンセミナー ⑦

日程

2024年7月14日(日) 12:30~13:30

会場

第7会場(熊本城ホール 3F 中会議室B1-3)

〒860-0805 熊本県熊本市中央区桜町3-40

二次骨折予防の重要性と 骨粗鬆症治療薬の適正使用

座長

医療法人鶴整会 鶴上整形外科リウマチ科 院長

鶴上 浩 先生

演者

産業医科大学医学部 整形外科学 教授

酒井 昭典 先生

日本整形外科学会教育研修単位のいずれか1単位が取得できます。(受講料1単位1,000円)

必須分野 1.整形外科基礎科学 または 4.代謝性骨疾患(骨粗鬆症を含む)

【日本骨粗鬆症学会】

日本骨粗鬆症学会認定医教育研修単位5単位(非基本項目)、骨粗鬆症マネージャー教育研修単位3単位が取得できます。
(単位受講料無料)

単位取得のための受講申込方法詳細は、学術集会ホームページ(<https://www.c-linkage.co.jp/jcoa37/index.html>)をご確認ください。

※本会共催セミナーは整理券制ではございませんので、直接会場へお越しください。

なお、弁当数に限りがございますので予めご了承ください。

共催

第37回日本臨床整形外科学会学術集会

火の国学会・熊本／

東和薬品株式会社／中外製薬株式会社

二次骨折予防の重要性と 骨粗鬆症治療薬の適正使用

2022年の診療報酬改定で、大腿骨近位部骨折患者に対する「二次性骨折予防継続管理料」が新設された。この改定は、大腿骨近位部骨折後の再骨折予防への取り組みや骨粗鬆症リエゾンサービス(OLS)の推進を後押しするものであるが、今なお十分な成果が得られていないのが現状である。

我々は、2016年から北九州西部地区の6病院において、地域から骨粗鬆症性骨折を減らすための取り組み(STOP-Fx)を行ってきた。骨折時に登録した骨粗鬆症性骨折女性患者は2年間で805名であった。登録後2年以内に二次骨折を起こした患者は6.3%であった。二次骨折発生の有無と登録時のデータを多重ロジスティック回帰分析した結果、二次骨折発生有りに関連する有意な因子は、TRACP-5b高値と低骨密度であった。登録後2年間定期的に追跡可能であった445名と追跡から脱落した360名について分析した結果、追跡からの脱落は、高齢、低骨密度、病院の形態(ケアミックス病院よりも急性期だけの病院)と有意な関連があった。血清25(OH)D濃度が20ng/ml未満の患者が80%いることやビスホスホネート製剤を服薬していても骨密度が上昇していない患者がいることもわかった。

ビスホスホネート製剤にエルデカルシトールを併用投与することにより骨密度の上昇や運動機能の改善が期待できる。腎機能低下患者へエルデカルシトールを投与する場合には高カルシウム血症に注意する。骨折後早期から適切な薬剤で治療介入し、二次骨折のリスク低減に努める。治療継続率の向上には、急性期病院から回復期病院、そして骨粗鬆症の継続治療を行うクリニックへの連携が必要で、OLS体制の確立が欠かせない。